

Sonata No.4 for Violin and Piano “Children’s Day at the Camp Meeting”

これは元来甥の Moss White Ives という当時 12 歳だった子供にも演奏できるような作品として仕立てるつもりでした（1914 年から 15 年にかけて作曲）。第 1 楽章はそのようにできたのですが、第 2 楽章と第 3 楽章はアイブスが本気を出してしまったりしく、演奏が難しくなってしまったようで、Moss はもちろん、彼の先生にも演奏ができなかったとのこと。

この作品は元来 4 楽章形式で構想されたのですが、アイブスが印刷業者に渡すときに最終楽章を（彼いわく、誤って）切り離してしまった、とのこと。確かに第 3 楽章はなにかもう少しもの言いたげで終わってしまっています。失われた第 4 楽章については追跡ができない状況ですが第 2 ヴァイオリンソナタの最後の部分がこの失われた楽章と関係がある、とも言われています（Memo 165p）。しかし、間違っって切り離したことが分かっていながら、その後アイブスが何もしていないので、結局これはこれ、ということになります。

ニューイングランドの教会の催しとして、子供の教会礼拝があり、ときにキャンプの集いを行うことがあります。そこで歌われるメロディーが使われています。

第 1 楽章 アレグロ すこしずつ上昇する構成をしています。これは子供がうたうときに少しずつキーを（そしてテンポも）ずらしていくような感じです。最初は変ロで始まった楽想が次の出現ではロでそして次はハと登って変ロにもどって、最後はおとなしく終わります。

第 2 楽章 ラルゴ 確かにこれは 12 歳には難しいかもしれません。ピアノも確かな腕が必要なので。この楽章と次の楽章の技術的水準を考えると当然に子供の作品ではありません。冒頭のピアノで示される断片的な楽想が楽章を全体を支配しています。最後にヴァイオリンの引き延ばされた E の上にピアノが A から G# と移りますが、これは彼方でとなえられたアーメンだそうです。

第 3 楽章 アレグロ “Shall We Gather At The River?” による楽章です。冒頭から子供にはなじみのある断片が予感され、最後に“At The River”の有名なメロディー（これは「まもなくかなたの」という和名で知られる賛美歌です。そしてこれはビックカメラのコマーシャルで使用されているのでご存知の方も多いかもかもしれません）がほぼ完全な形で出現します。

演奏時間 10 分

434 Shall We Gather at the River?
R. L. Rev. ROBERT LOWRY

1. Shall we gath-er at the riv - er, Where bright an-gel feet have trod;
2. On the mar-gin of the riv - er, Wash-ing up its sil-ver spray,
3. Ere we reach the shin-ing riv - er, Lay we ev-ery bur-den down;
4. Soon we'll reach the shin-ing riv - er, Soon our pil-grim-age will cease,

With its crys-tal tide for-ev-er Flow-ing by the throne of God?
We will walk and wor-ship ev-er, All the hap-py gold-en day.
Grace our spir-its will de-liv-er, And pro-vide a robe and crown.
Soon our hap-py hearts will quiv-er With the mel-o-dy of peace.

CHORUS

Yes, we'll gath-er at the riv - er, The beau-ti-ful, the beau-ti-ful riv - er;
Gath-er with the saints at the riv - er That flows by the throne of God.